

参会者の感想

- ・『ピリカ、おかあさんへの旅』サケのたくましさ。大変良いお話でした。心が和む思いでした。朗読のお二人もやさしい声で良かったです。分散会のお話は、勉強になりました。参加された方の年代がまちまちで、その年代のことを知ることができました。節目の行事を伝えたり、命を繋ぐこと、大切にしたいです。
- ・人と人との繋がりを深めていかれる社会づくり、一人ひとりを大切にする社会づくり、命を繋いでいく社会づくりへ。何が必要なのだろうと考えさせられた時間になりました。何が…ということは、なかなか見えてきませんでしたが、おせっかいが必要なのかなと感じました。うるさいかもしれないが、あいさつする、手伝えることはありませんかと声をかける、やはりここがスタートなのかなと感じました。
- ・地域コミュニティの希薄化について主にお話させていただきました。昔に比べて近所の方々に対する関心がなくなってきており、地域交流をする場面が少なくなったということは、下諏訪町においても多方面において弊害を生み出しているなど感じました。今回の分散会で、一番印象に残っているのは、「誰にも居場所と出番がある」という言葉でした。自分も含めて、下諏訪町に住む一人ひとりに、自分にも何かできることがあるという気持ちを持ってもらい、積極的な地域活動への参加を促すことが必要なのかなと思いました。
- ・分散会の中で、改めて「受け継がれた命、自然や人や社会との繋がり」について考えさせてもらいました。地域の方や環境に支えられて暮らしていること、次の世代のために、自分たちも支えていくことなどを知るのは、大切なことだと思いました。分散会の中で話題になった“体験すること”で人生が豊かになると思います。自分も子どもたちにたくさんの体験をさせてあげたいと思いました。
- ・尊い命が受け継がれてゆく大切さや親の愛など、心に沁みる絵本の読み聞かせでした。受け継がれる命はとても大切であり、自分も他人も大切にしていきたいし、人間だけでなく、動植物、自然全てを大切にしていきたいと改めて思いました。また、無駄な命は無い、とも感じました。
- ・日々、大切な生命をたくさんお預かりしているが、改めて生命を繋ぐことについて深く考えることはあまりなかった。今日は、読み聞かせ公演をお聴きし、本音での話し合いに参加できたことをとても幸せに感じている。長年生命を預かる仕事をしてきていて、ヒヤッとすることもあったが、ここまで大きな事故もなく無事来られたことは、奇跡？に近いのかな。これからますます気持ちを引き締め、衿を正してこの重く大切な、そしてこれ以上ない楽しい仕事をしていきたい。



発行 下諏訪町教育委員会
編集 生涯学習
編集委員会

〒393-8501
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40
(下諏訪総合文化センター内)
☎ 0266-27-1111(内線718)
FAX 0266-28-0131
E-mail=syougai@town.
shimosuwa.lg.jp

町人権教育研修会・9月26日（月） ＊70名が出席

テーマ 「受け継がれてきた生命（いのち）の尊さ、生命を支える自然と人と社会

・絵本『ピリカ、おかあさんへの旅』（越智典子文、沢田としき絵）の読み聞かせを鑑賞し、太古からの繋がりの中で生命が受け継がれてきたことに思いを致し、生命尊重とそれを支える自然・人・社会のあり方について考える。

サブテーマ 「次世代を担う者たちへのエールを」

- | | | |
|-----------|---------------|---|
| (1) はじめの会 | : 14:00～ | ①教育長挨拶 |
| (2) 全体会 | : 14:10～14:30 | 読み聞かせ公演『ピリカ、おかあさんへの旅』
※音訳ボランティア団体「やまびこの会」のみなさん |
| (3) 分散会 | : 14:35～16:00 | * 6分散会 |
| (4) 終わりの会 | : 16:10～16:30 | ①参会者の感想発表（2名） ②講師まとめ（林尚之指導主事） |



音訳ボランティア「やまびこの会」について

やまびこの会は、下諏訪町立図書館を拠点に、視覚障害者や病気・老眼などのために、自力で本を読みづらい方々に、本・雑誌・新聞・広報など、印刷されたものを音訳し、利用者に届ける活動をしています。現在40名ほどの会員が在籍し、月に一度の定例会を持ち、音訳の方法について研修を重ねています。

松崎教育長の挨拶から（抜粋）

……本年度より新たに始まりました「第7次下諏訪町総合計画、施策の大綱」の第3章では、「優しさと生きがいを持つ人づくり」として「世代毎の支援と伝承」「広く豊かな感性の育成」「相互理解と共生の実現」が挙げられています。この中の、「人権感覚の育成と尊重」という項では、方針として「他人を思いやり、命を大切にすることを社会を実現するために町民一人ひとりが人権問題を自分の問題として捉え、考えることができるよう、地域、学校家庭や関係機関の連携により、各種研修会の実施、啓発活動などを通じ心情に訴える人権教育を一層推進します」とあります。特にこの度「命を大切に社会」という文言が加わったことは、現状において悲しい事件が相次ぐ、昨今の世相を受けての重要な事柄であると考えます。

そこで、本年度の重点テーマを「受け継がれる命の尊さ、命を支える自然と人と社会」とし、町内の音訳ボランティアグループ「やまびこの会」の皆さまによる絵本『ピリカ、おかあさんへの旅』の読み聞かせを鑑賞していただき、永遠に命が受け継がれるということや、生命尊重とそれを支える自然・人・社会のあり方などを考える研修会となるように企画致しました。更にサブテーマを「次世代を担う者たちへのエールを」と設定させていただきました。後ほど行われる分散会の中で、ご参集の皆さまの思いを存分に語り合っていましたら嬉しいです。皆さまからお寄せいただいた事前アンケートには、様々な貴重な内容がありました。そのお考えを素にしてのご感想で結構ですので、忌憚のないご意見をお出しください。

『ピリカ、おかあさんへの旅』

ブックレビューより

私が読む前に息子は、さらっと読み終えて、

「お母さん、このお話、最後がとってもいいんだよ。ピリカが、お母さんになるの」

そんなに楽しいお話なのかと思っ
て読みましたが、最後は、私が思っていたのとは少し違っていました。

お母さん知らないピリカが、お母さんを感じるのなぜか、そして、ピリカに限らず、すべ



ての鮭がお母さんを知らないのはなぜか、読み終えるとよくわかります。

一つの命が生まれ、そして消えてゆく。しかし、その命は姿かたちを変えて、永遠に繋がってゆく。その様を、真正面から暖かい目できちんととらえている作品です。

鮭の一生を写實的に描きながらも、一つの物語として完成されていることに驚きました。5歳の息子には、まだ全てを理解することはできないようです。しかし、もう少し大きくなって、また読み返した時に、新たな発見をすることでしょう。

母の愛と、懸命に生きることの素晴らしさを教えてくれる作品です。

※この絵本は、町の図書館にあります。ぜひ手に取ってみてください。

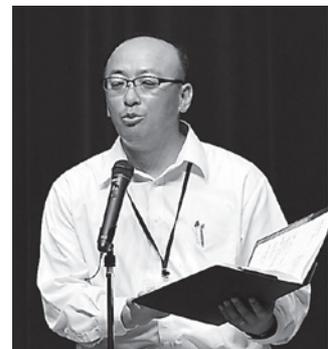
「諏訪の自然と人のよさを一緒に見つけていこう」

南信教育事務所生涯学習課 指導主事 林 尚之

『ピリカ、おかあさんへの旅』の絵本の中に、「おかえり……おかえり……」という一文があります。幾多の試練を乗り越えて卵を産み、役目を終えた鮭のピリカへ、先祖が温かい言葉を伝える場面です。諏訪湖にはかつて、うなぎが遡上^{そじょう}していました。絵本と似たシーンは、諏訪湖でも展開されていたかもしれません。

自然豊かなこの諏訪の地には、受け継がれてきている生命がたくさんあり、生命の尊さを感じる場面がたくさんあります。私たちは「次世代を担う者たちへのエール」で何を伝えていったらよいのでしょうか。私なら「諏訪の自然と人のよさを一緒に見つけていこう」というエールを送りたいと思います。

私たちは、諏訪は自然豊かな地であるからこそ、環境を守ろうとして、また、地域行事である御柱祭を無事終えようとして、地域の人と人が繋がって幅広く活動してきました。これこそが次世代へ伝えていきたい、自然と人と社会のあり方ではないでしょうか。様々な問題や課題を自分事として捉え、一緒に活動していくことが、人権教育の原点だと考えます。



誰にでも居場所と 出番のある社会を めざして

民生児童福祉委員協議会

一村 幸正



テーマ『受け継がれる生命の尊さ、生命を支える自然と人と社会』ということで、『ピリカ、おかあさんへの旅』の読み聞かせ公演では、命の尊さ、生きる強さと逞しき、自然の大切さを教えてくれたテーマにふさわしい内容と共に、「やまびこの会」のNHK仕込みの素晴らしい朗読に感動しました。

今回「命」という大変難しいテーマを与えられ、非常に悩みましたが、民生児童委員活動の中から、最近感じている「命」について考えてみました。先日

長野県社会福祉大会が開催され、その席上、阿部長野県知事は、長野県では一日ひとりの方が自殺で亡くなっている。自殺防止対策にしっかりと取り組みたい。

そのためには「誰にでも居場所と出番のある社会」を目指したいという趣旨の話をされました。「居場所のある」は度々聞かれますが、「出番のある」はあまり聞き慣れません。全ての人に「出番」を作ること、特に中高年の出番は、近年壊れかけている地域コミュニティの再生に大いに役立つと思います。

イジメ、虐待、孤独死のない社会実現のため地域全体で考え、一人ひとりができることから行動することにより、思いやりのある、助け合い、支え合える地域を作ることが地域力の向上につながります。このような出番を作る活動は、各地で多発している自然災害の減災、防災面でも大いに役立つと思います。

受け継がれていく 命の大切さを伝える

役場健康福祉課

浅澤 恵里



「ピリカ、おかあさんへの旅」

この絵本は、一匹の鮭が遡上し、故郷の川で卵を産み、一生を終えて自然に還る物語です。細かい色遣いのとても綺麗な絵本でした。ずっと昔から親から子へ受け継がれていく命のバトン。命は終わっても、ほかの生物の命として、自然の一部として形をかえて永遠に繋がっていくこと。そして、命のバトンを子に引き継ぐ親の思いと力強さ、全ての命の尊さを感じられる、大人にも是非読んでいただきたい、奥が深い絵本でした。

サブテーマである「次世代を担う者たちへのエールを」にあるように、受け継いできた命や自然をどのように次世代に伝えていくか。分散会では、昆虫の飼育を通して命の尊さを知る、性教育の中に取り入れる等、様々な取り組みができました。思い思いに話す中で出てきたキーワードが、「体験すること」でした。

植物・動物の命を育てる体験、自分と違う世代の人と交流する体験、小学校と養護学校の交流体験。「体験」を通して相手と自分の違いや良いところを発見できるのだと思います。相手を知ること、相互理解が深まり、思いやる心が生まれ、自尊心を高めるのだと感じました。

未来を担う子どもたちと関わる大人のひとりとして、体験をすることの大切さ、人と人との絆の力を伝えていきたいと思えます。



思いやいっぱい みずべっこの元気な仲間

～年長児が“おまつりごっこ”に招待してくれました～
みずべ保育園

毎年、保育園では年長児が「皆で仲良く遊ぼうね」という思いを込めて、仲良し会を計画しています。今年も楽しい“おまつりごっこ”に招待してくれました。



お面とネックレスやさん

「どれにしようかな？」
たくさんあって迷っちゃう



焼きそばとやきもろこし
ができましたよ



友達と一緒に買い
物。楽しいね。



ボール釣り
上手くできるかな？



「マカロンって何？」

「マカロン
美味しいよ」

お面、スイーツ、アクセサリ
ボール釣り、輪投げ、串焼き、
金魚すくい焼きそば、クレープ、
くじ引き、射的……
いろいろなお店がありました。



スイーツやさん

かきごおりやさん

「300円です」
「はい、どうぞ」
お金のやりとりも上手にできます

おまつりごっこ 楽しかったです。
これからも 皆で仲良く遊ぼうね!!



教育委員会からのお知らせ

★平成29年 下諏訪町成人式のお知らせ

成人該当者：平成8年4月2日～平成9年4月1日までに生まれた人



期 日：平成29年1月8日（日）
受 付：午前11時30分
入 場：受付終了次第
開 式：正午
場 所：下諏訪総合文化センター

該当者（当町在住の方・親等が在住の方）には、出欠席の往復ハガキを11月初旬にお送りしました。必要事項をご記入の上ご返信ください。

記念となる成人式を自分たちで運営してみませんか？

成人を迎える方の中から、成人式運営スタッフを募集します。役割は、式典受付・町民憲章の唱和・成人の詞・司会・祝電披露などです。希望される方はご連絡ください。

問い合わせ：下諏訪町教育委員会 生涯学習係 ☎27-1111（内線718）

町民大学 — 下諏訪を学ぶ⑤ — 「メンデル講演会」

日 時：12月3日（土） 午後1時30分～午後3時
会 場：文化センター 集会室 ※当日受付可（受講料100円）

- ①演 題：「メンデルの遺伝子、非メンデルの遺伝子」
講 師：広島大学大学院理学研究科 草場 信 教授
- ②演 題：「野生メダカの生物学」
講 師：新潟大学大学院理学研究科 酒泉 満 教授
- ③演 題：「放射線の染色体に及ぼす影響」
講 師：放射線医学総合研究所 研究室長 数藤 由美子 博士

メンデル資料の公開
諏訪湖博物館では、
メンデル関係の資料
の公開が行われます。
10月8日（土）
～12月18日（日）

☎28-0002（生涯学習係）

十一月六日

小学校のある授業風景です。授業開始の挨拶の時から、使用済みのセロテープの紙芯の中央に腕を通し、クルクル回しているA男。学習に向き合えるのだろうかと心配して見守る。

授業が始まり、先生が子どもたちの学習状況に応じて「良い字だね！」「それでOKだよ！」「ていねいに書いているね！」「良い姿勢だね。」と、つぶやくように一人ひとりに声をかけ始めました。その声が教室に広がり、聞こえていました。

先ほどまでクルクル回していたA男。先生の声を聴きつつ、紙芯を机にしまい、ノートを開き、エンピツを持ち、板書を書き始める。途中まで書いたA男に近づいた先生が、「ていねいに書いているね」と声をかける。

この時間のA男は、授業開始時のクルクル状況が全く現れず、学習に向き合い、最後まで学び満足げでした。

子どもの行為をオウム返しのように子どもに伝えることが、子どもの自立力・自律力・自己肯定感を生み出すきっかけになりそうだと感じた機会でした。

（林 仁悟）